

令和元年度 学力調査の結果について

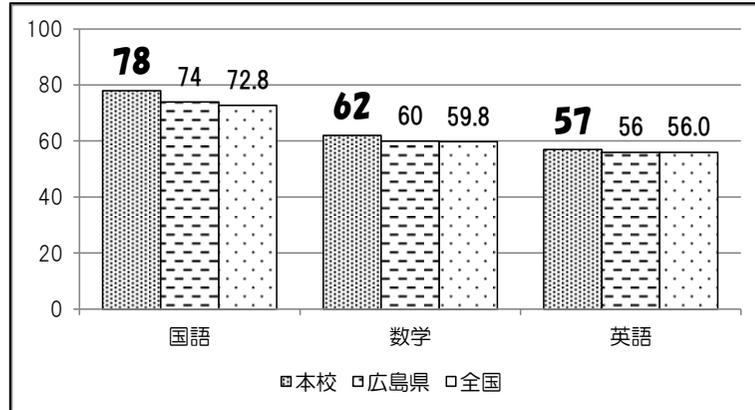
4月に、3年生対象の全国学力・学習状況調査、6月に、2年生対象の広島県「基礎・基本」定着状況調査（生徒質問紙）が実施されました。その結果を報告します。

1 全国学力・学習状況調査

右の表は、教科に関する調査（国語、数学、英語）の平均正答率のグラフです。すべての教科において、広島県及び全国平均を上回りました。

「教えて考えさせる授業」を基盤とし、課題発見・解決学習に取り組んできた成果を出すことができました。

各教科で、次のように整理しました。これを基に今後も授業改善に努めていきたいと思えます。



	成果	課題	改善策
国語	書くことの領域が優れていた。特に、「短歌」から感じられることを書いたり、資料を用いて文章を書き加えることができていた。書いて自分の思いを表現することに優れている。	読むことの領域で、表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをもつことに課題がある。	自分の意見に根拠・理由をつけて考えられる力をつける必要がある。授業等で「なぜ、そう思ったのか」を問いかけ、根拠を明確にして自分の考えをもつ力を育成する。
数学	関数、資料の活用の領域において、おおむね定着していることがわかった。特に、資料の活用における代表値やその活用において定着していた。	数と式の領域における数の集合と四則計算の可能性について課題が見られた。	数の集合についておさえるとともに、平方根などにおいても活用できるよう力をつける必要がある。
英語	聞くことの領域が優れていた。特に、話の内容を理解したり、理解した音声文について書くことができていた。外国語理解の能力が優れていた。	書くことの領域で、資料を読み取り書く問題、ピクトグラムを比較し意見書を書く問題が全くできていなかった。	資料を読み取る力、課題に対して自分の意見を持つこと、それを英語で表現する力を付ける必要がある。類似問題をこなし、思考と表現のパターンを習得する。

また、質問紙調査の結果から次のような成果や課題が見られました。

(1) 総合的な学習の時間を中心とした地域に密着した学習

今住んでいる地域の行事に参加している	90.9%(全国+40.3)
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	54.6%(全国+15.2)

(2) 目標をもって学習に取り組む姿

将来の夢や目標をもっている	90.9%(全国+20.3)
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している	90.9%(全国+20.6)
家で自分で計画を立てて学習している	72.8%(全国+22.4)

(3) 学習したことの活用と表現することの工夫

新聞を読んでいる	0.0%(全国-12.7)
授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている	63.6%(全国-11.3)
考えを発表するとき、伝わるように資料や文章など組み立てを工夫している	45.5%(全国-10.3)

今後、各教科で学んだことを他教科や実生活でどのように活用できるか意識させる授業を進めるとともに、発表場面等において、表現力の育成を意識した授業づくりを行っていきます。

2 広島県「基礎・基本」定着状況調査（生徒質問紙）

この調査においても「地域行事への参加」に関する質問が72.8%と県平均より+25.5 高くなり、「勉強の計画を立てている」が72.7%（県+16.8）と成果としました。また、「教えて考えさせる授業」での予習の取り組みの成果として「予習している」が63.7%（県+20.6）となっています。

課題発見・解決学習に関しては、次の表のようになりました。

授業で「なぜだろう」「やってみたい」と思う	90.9%(県+19.6)
授業で「こうすればできるのではないかと予想している	90.9%(県+14.7)
授業で進んで資料を集めたり取材したりしている	36.4%(県 -5.6)
総合的な学習の時間では、課題を立てて情報を集め、調べたことを発表している	90.9%(県+21.9)

意欲的に授業に臨めていることが分かります。また、総合的な学習の時間において、それぞれのテーマにおける個々の課題を見つけ、情報収集を行い、整理しまとめをすることができています。

しかし、普段の授業においては、情報を収集する際の資料選びに課題があることが分かりました。課題を解決する際の資料集めや情報の精選などできる力を身に付けさせたいと思えます。